



まもなく令和二年

野村アセットマネジメント
CEO兼執行役社長

中川 順子

令和元年が終わる。

幼い頃「明治生まれの方」と聞くと、着物姿の祖母に、教科書にある江戸時代の絵まだが混ざって、とても遠くてなぜかきりりとしたイメージでいっぱいになったが、自身がいよいよ3つの元号を生きることにしたことは感慨深く。

1960年代始めのオリンピック準備が進む東京の映像を観る機会があった。急激な人口集中、急速な開発に、国民の生活インフラは追いつかず、満員電車、度々滞る浄水供給、交通事故死者率は世界上位、そして長時間労働、の絵だった。やがて、女性に男性と同じように働く機会を、の法律ができて昭和が過ぎ、平成には働く選択肢が少し広がり、「働き方改革」が進む中で令和を迎えた。男女共に別の悩みは増えるのだろうけれど。

映画が好きだ。幼い頃、子供は夜8時に就寝、の家庭だったが、母は、好きな映画がTV放映される日は、寝ている私を起こし、一緒に映画を観て夢の世界に浸った。中でもオードリー・ヘプバーンとチャーリー・チャップリンの映画は絶対だった。お陰で中学生の私の夢はVFXの技術者で、めざすはハリウッド、だった。スポーツやその選手を観るのも好きだ。今年のラグビーW杯も、その素晴らしいキャッチコピーの通り、響いた。

強い思いをもって、無から創る、行動で感動させる、そういう方への敬意はずっと変わらない。自分にできない分、自身の業でサポートしよう、

と思った。社会に出て暫くのある日、お客様に「次は、人を傷つけない車を作るんですよ。」と笑顔で言われた時も。その時私の頭に浮かんだのは、大きな浮き輪をかぶった車だったが。



オードリー・ヘプバーンは、映画だけでなくその生き方も好きだった。「威張る人って結局は一流ではないのよ」、は最近見つけた彼女の言葉。「いつもGracefulな自分でいよう」、は大切に思っていた人が遺した言葉だ。時代や他人を批判するだけなら簡単だ。メルケル首相が、国内イベントで子供から質問されると笑っていた。「男の子でも首相になれるの?」。今の常識や社会通念が必ずしも明日のそれではない、だろう。

多くのことがあった一年がまもなく終わる。たくさん、辛い悲しいことも、いいことも勇気もらった出来事も。

皇位ご継承の関連行事を拝見するだけで清々しい気持ちに。さあ、これから。

まもなく令和最初の新年、皆さまどうぞ良いお年をお迎えください。